

次世代に残したい伝統の技 ～特別名勝を守る庭師～【学習シート】



庭園の国宝と呼べる「国の特別名勝」を守るのが庭師の仕事から、働きがいについて考えて、代々受け継がれてきた技術が、これからの持続可能なまちづくりや経済成長にどのような役割を持つか？ 考えてみましょう。

一つの庭で同時に造ることが難しい6つの景観が備わっている兼六園。江戸時代からその景観を守るために、たくさんの人が細心の注意を払って手を入れています。

【問①】 兼六園を維持していくために、どのような仕事をしている人がいるか観察してみましょう。

庭師は、この庭が造られた江戸時代から、遠い未来まで見越しつつ、「今何をすればベストなのか」という、長い長い視点を持って日々の仕事をしています。さらに、来園者へのおもてなしの心や感動を届けたいという気持ちも込められています。

【問②】 兼六園の庭師の仕事の大変さややりがいについて考えてみましょう。

庭師の仕事はSDGsで考えると、特にゴール6、ゴール11、ゴール13、ゴール15の達成に密接に関わっています。また、庭園は日本のアイデンティティをわかりやすく海外に伝えることができるツールにもなります。

【問③】 兼六園を維持してきた伝統の技が、これから持続可能な開発を行っていく上でどのように生かせるか？ 具体的に考えてみましょう。

ポイント◎時代とともに築いてきた価値を次の世代に引き継いでいくことが庭師の仕事。庭師の仕事を例に、表面的にはわかりにくい、伝統に裏打ちされた仕事の魅力について、過去と未来、今を掛け合わせて考えてみる機会にしましょう。

次世代に残したい伝統の技 ～特別名勝を守る庭師～【学習シート】事後学習

兼六園で伝統を守る仕事の大切さを学んだら、SDGsのゴール8「働きがいも 経済成長も」に通じる
伝統を守っている仕事について考えてみましょう。

兼六園の庭師たちは、今の兼六園をできるだけ変えずに、次の世代へと引き継いでいくことに力を注いでいます。そのために必要な技術や知識は代々受け継がれてきたもので、これは一度途絶えてしまうと再現できないものが多いです。また、伝統の技や仕組みを理解していないとイノベーションを起こすことができないことも多く、そこには持続可能な開発のヒントになる知恵もたくさん含まれています。



【問】 庭師のように伝統を引き継いでいく仕事のやりがいや、持続可能な開発を行っていく上で必要となる技術や知恵について、自分が住んでいる地域で盛んなことや自分が関係している、もしくは興味があることから1つを取り上げて、具体的に考えて発表しましょう（伝統工芸や伝統芸能、伝統的な産業など）。

ポイント◎ SDGsのゴール8「働きがいも 経済成長も」について、多様な仕事や視点から考えるために、古くからある仕事の魅力や価値を問い直してみることはとても意義があります。